

ナリ土人岸付テ萬年橋ト唱フ常ニ牛馬ヲ通セス

神社

青渭神社 除地山林一町五段四畝廿二步村ノ北大丹波村ノ山堺ニテ...

神明社 年貢地八坪村ノ中程ハ十八日コトイツレモ九月一ケレハイカニトモ

天王社 年貢地八坪村ノ中程ハ十八日コトイツレモ九月一ケレハイカニトモ

八幡社 年貢地五坪村ノ北ノ方山ハ下澤井ニアリ

寺院

慈恩寺 除地一段十二步小名横尾ニアリ新義興言宗ニテ青梅村金剛寺末横尾山ト

東林菴 除地九畝十步村ノ西ノ方山モ詳ナラズ菴ハ五間ニ二間南向本尊釋迦ノ住持

彌陀堂 年貢地九坪小名丹尾ニアリ四間ニ二間半

大日堂 年貢地十一坪小名横尾ニアリ三間ニ七寸半

十王堂 年貢地十坪下澤井村ノ境ニアリ長九寸

大仲寺 年貢地十二坪高麗郡藤井村ノ白山寺ノ配下ナリ

東國院 年貢地三畝村ノ中程ニアリ配下ナリ以上上澤井ノ地ニアリ



雲慶院 除地内二百坪許小名塚瀬ヨアリ太平山ト號ス禪宗曹洞派ニテ根ケ布天  
五寸ナルヲ安ス開山ナ整重九山ト云天正十四年七月十三日ノ示寂セリ 鐘樓門  
御朱印モアリ古キ寺ナレトモ傳テ失ヒタルコトヲ知ラス 鐘樓門  
入テ右ノ方ニアリ九尺四方鐘ノナリ 觀音堂 彌陀ヲ安メ長二尺ナル坐像ナリ西國  
ヨリ二尺實永二年ニ鑄モノナリ 觀音堂 彌陀ヲ安メ長二尺ナル坐像ナリ西國  
三十三所ノ觀音ノ實チ 白山祠 堂後ノ丘上ニ  
安ス木像ヨク長九寸餘 白山祠 堂後ノ丘上ニ  
東光寺 除地内百坪餘村ノ西ノ方山キハニアリ是モ天寧寺末ナリ龍澤山ト號ス  
ノコトハ先年焼亡ノ過去帳等モ失ヒテ詳ナ  
ルコトハレノス以上ニケ寺下澤井ニアリ

二俣尾村

二俣尾村ハ郡ノ西ニテ日向和田村ニツケリ氷川郷柚保庄ニ屬ス俣ノ字或ハ又ト  
モ書リ當國ト相模國ノ境ナルニ又川ヲ引テ此地ハ則島山重忠カ戰死セシ所ナリト  
云是牽強附會セシモノナリ二俣川ハ自ヲ別ナリ村内奥澤橋ト云テ東ノ方ヨリ渡レ  
ハ街道アリ其道左右ニワカル左ハ甲州大菩薩峠ヘ通フ道ニテ東西ニ通ス右ハ小曾  
木村成木村ヲ經テ秩父郡ヘユク道ナリユヘニ二俣尾ノ唱オコレリト當所ハ古ヘ三  
田彈正忠カ居城トセシヨリ子孫代々コノ地ニ住スト云村民七兵衛カ家ニ藏スル記  
録ヲ見ルニ三田彈正少彌綱秀ハ平將門十六代ノ後胤三田ノ領主初ハ鎌倉管領上杉  
顯定ノ幕下ナリ然ルニ天文年中上杉氏ヲトロヘ北條氏康關東ニ威ヲ振ヒ大半コレ

ニ從ヒケルニ綱秀長尾輝虎ニ從ヒ上杉ヲタスケテ北條ヲウダントス其後成田下總  
守長康故アツテ長尾ト半楯ニ及ヒシカハ關東ノ諸士イヨイヨ輝虎ヲソムキテ氏康  
ニ屬スルモノ多シ然ルニ綱秀ハ是ニモナヒカス尙輝虎ニ屬シ三田ニ籠城セシカハ  
永祿六年氏康コレヲ攻ケルニ綱秀力サヘカタク三田ノ城ヲ落テ岩槻ニオモム  
キ遂ニ自害ス年七十四高山淨源菴主ト號ス子息二人アリト是海禪寺ノ過去帳ニノ  
スル重五郎喜藏等カ事ニテ當所ニ居住セシナルヘシ又日向和田村百姓彌四郎カ藏  
スル所ノカレカ先祖刑部丞ヘ北條氏照ヨリ賜ヒシ文書ニ二貫文下村ニ俣尾屋敷ト  
アリサレハ元龜天正ノ比ハ刑部丞カ領セシ所アリシコトハ疑ヒナシ村ノ四境ヲイ  
ハ、東ハ日向和田村ニ隣リ西ハ澤井村ニ接シ北ハ小曾木村ニツ、キ南ハ多磨川ヲ  
限トシ川ノ向ハ柚木村ナリ東西一里半餘ニテ南北ハワツカニ五町許横ニ長キ村ナ  
リ地形平ニシテ膏腴ノ地ナレハ五穀生殖シテ土民富ル者多シ民家百四十三軒山林  
畑地相半シ水田至テ少シ江戸日本橋ヨリ行程十四里半ニ及ヘリ當所ハ田安殿ノ領  
地ナリ賜ハリシハ延享四年ヨリト云檢地ハ寛文八年御代官曾根五郎左衛門ウケタ  
マハリテ糺セシコトアリ

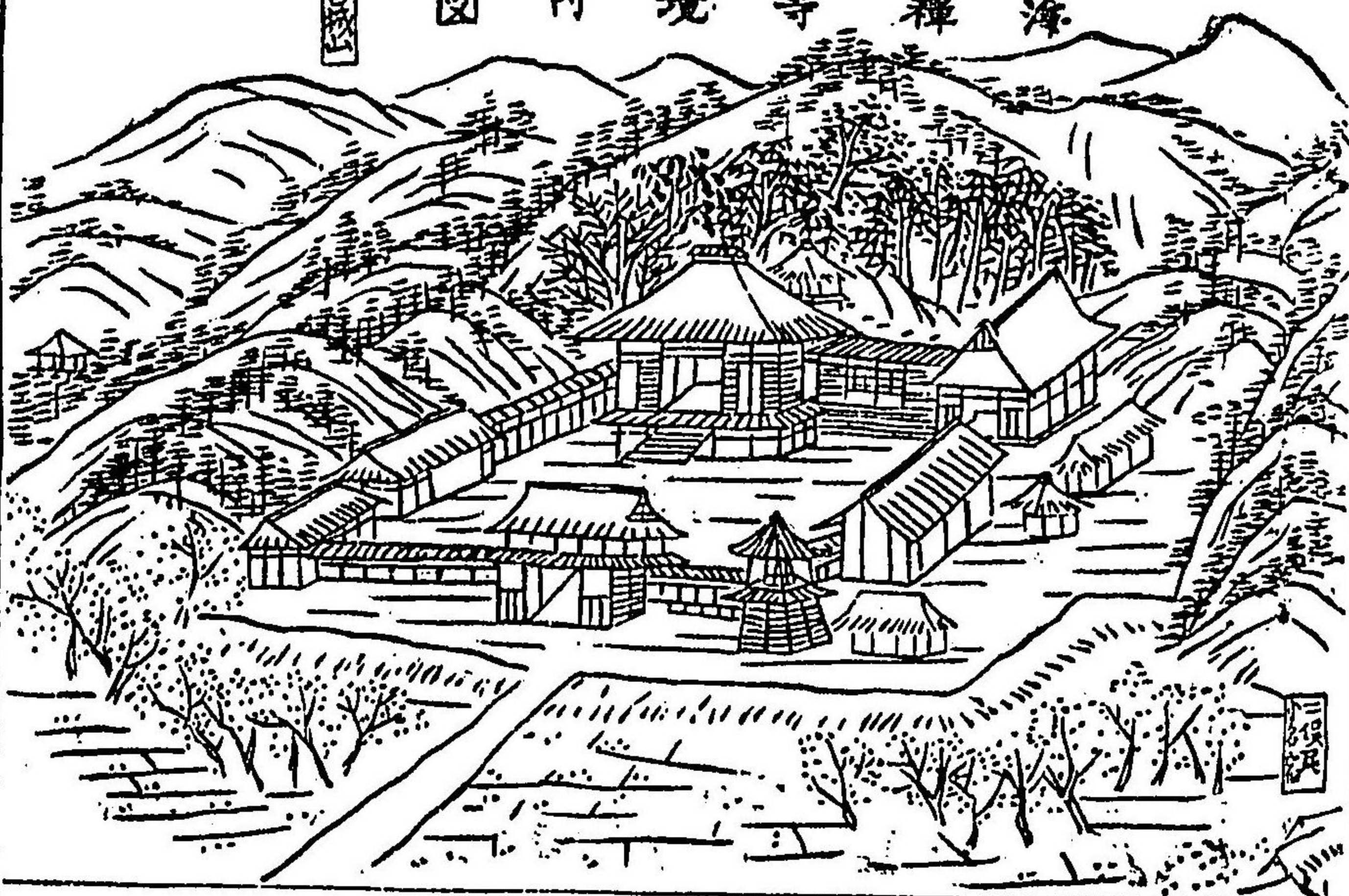
高札場 小名宿



奥澤村橋頭圖



海禪寺境内圖



小名

平溝 西ノ方ニテ澤井 蜂窪 北ノ方ニ  
 井村ノ境ニ出ノケ谷戸ノ前ニツ田入  
 西ノ方ニテ往 西城村ノ中央海禪寺  
 還ノ内ナリ 峽田村ノ南ノ方 石神 東ノ方ニハツ 深  
 澤 日向和田村ノサカヒ 宿村ノ北山  
 ワキナリ古ハ横吹ト云 宿村ノ北山  
 ニ民戸アリ街道凡三四町許アリテ古  
 ハ城下町ト云

山川

奥澤川 水源隣村澤井村ノ谷間ヨリ流  
 ツレヨリ南ヘテ川ノ幅凡三間許  
 川ヘオチイリ川ノ幅凡三間許  
 石神澤 村内北ノ山ヨリ流レ出凡二十  
 ニテ多磨川ヘオチ入ルユヘ  
 小名ヲ以テ澤ノ名トナス  
 唐澤 間ヨリ流レ出末流ハコレモ多磨川  
 ルイ

橋梁

板橋 甲州街道ノ橋ナリ奥澤川ヘ架ス故  
 モ土橋及柴橋ナレハ七ヶ所アレ  
 トモ何レモ小橋ナレハ零シヌ

神社

石神社 見捨地四畝許村ノ入口東ノ方ニ  
 ナラス社三尺五寸四方上屋アリ四間半  
 四方拜殿二間ニ五間神鏡ヲ安ス村持  
 雷神社 見捨地二畝許村ノ北ノ方ニ

寺院

海禪寺 村ノ中程ニテ南寄ニテアリ瑞龍山  
 井雙林寺 御末ナリ天正十九年寺領十五  
 石ノ陽フ御朱印御文面ニ海禪寺ト書  
 此時ヨリ依テ今ノ寺號ニ改メ山號モ又  
 四熊毛郡ノ人稻山氏ノ一州正伊ト云周防  
 國熊毛郡ノ人稻山氏ノ一州正伊ト云周防  
 第二世ノ長享年十一歳ニテ示寂ス本寺  
 云明應六年三月十八日寂ニテ永謙ト  
 正年中僧益芝當所ニ來リ小院ヲ營ニ開  
 自勝ヲ其二世ニ居カレリ久カラスシテ山



退隱ノシカハ明應元年其弟子雪菴ナル者師ノ遺跡ヲ慕ヒ又當所ニ來リ堂宇ヲ建  
 立シ師ノ號ヲトリテ山號トシ寺ヲ海禪ト云五世太古ノ時ニ至リテ當所ノ城主ヲ  
 田正少弼綱秀住僧トハカリ當寺ヲ再興セリ然レテ天正十七年第三世田氏落去セカハ  
 遂ニ兵火ニカハリテ諸堂コトコトク燒失セリ天正十七年第七世天江東岳ハサ  
 キニ德光禪師ノ號ヲ賜ヒシ人ニテ此僧ノ興セリテ諸堂悉ク修造セシカ其後又  
 回録ニ釋リ今又諸堂建リ當寺ハ綱秀カ中興セリテ諸堂悉ク修造セシカ其後又  
 臣三田代々尊盤トアリ野口氏ノ末孫刑部少輔秀房カ納メリテ諸堂悉ク修造セシカ其後又  
 トニ寛永四年ニ納メシモノコト古キコトニモアラサレハ其全文ヲ考證トモナラズ  
 村金剛寺ノ條下ニ合セ見ルヘシ又開基綱秀カ位牌アリ福禪寺殿前霜臺又高山淨  
 源庵主三田正少弼平綱秀永祿六年癸亥十月十三日トアリテ過去帳ニ妻及ヒ子  
 孫ノ法益アリ青龍院殿五安妙峯大姊綱秀內室永祿三日申年八月六日長壽院殿貴  
 山道富居士綺子三田重五郎永祿六年癸亥年十二月廿四日仁叟院殿儀山道郎居士次  
 男三田喜藏永祿七年甲子年八月廿六日法性院殿明峯道三居士三男三田五郎太郎豆  
 州而生害元龜三壬申年三月十一日トシレセリ又天正三年勅  
 願所及ヒ德光禪師昇殿勅許ノ繪旨ニ通テ遺ス則左ノス

當寺事爲 勅願所宜專佛法之紹隆奉禱聖運之長久者

天氣如此悉之以狀

天正三年六月廿三日

左中將花押

福禪寺

當寺可爲勸願所事則繪言如斯候尤珍重候可被抽 朝家御事ヲ精祈候殊下國為

而馳走之由神妙思食候彌諸檀那之賜緣可被專宗統之再隆候隨而出世之地之事  
 得其意候猶西堂可有演說候恐々謹言

六月二十三日

福禪寺

勝花押

勅德者依道自彰名者隨行推貴天成美之所恭恭東岳和尚傳鷲峯心印續少林妙訣淺  
 寒增氷經歷曹溪之三路矣歛眸擬見竺教之東漸既離是非傾耳要聞胡僧之西來豈  
 求名句肆舉者宿賞以震筆章特賜關州德光禪師

天正十三年十二月廿七日

第十五世保禪ノ時寶永五年正月十六日曉意會下號免許アリ本尊ハ釋迦ノ坐像  
 ニテ長一尺五寸脇士文殊普賢作シテ客殿十三間ニ九間廻廊アリ十五間ト十三  
 間ト 門一丈九尺五寸 鐘樓門テ入テ右ノ方ニアリ 禪堂 山門  
 リテ左ノ方ニアリ 山門 三間 四方 橫一丈五尺 開山堂 本堂ノ後ニアリ 二間  
 テ左ノ方ニアリ 山門 三間 四方 橫一丈五尺 開山堂 本堂ノ後ニアリ 二間  
 五間ニ四間七尺 山門 三間 四方 橫一丈五尺 開山堂 本堂ノ後ニアリ 二間  
 院 八間ニ五間南向本尊釋迦ノ坐像ヲ安ス長一尺九寸開山堂ニテ前寺ノ末ナリ客殿  
 世大永三年四月八日示寂  
 開基ツマヒヲカナラヌ  
 高源寺 除地七畝六歩小名平溝ニアリ天徳山ト號ス是モ本堂同前本堂八間ニ五間  
 南向本尊釋迦ノ坐像ヲ安ス長二尺餘開山堂ニテ前寺ノ末ナリ客殿



寂ノ年月ヲ失フ  
開基詳ナラス

慶徳寺 除地六畝十五歩高源寺ノ並ニ坐アリ采昌山ト號ス是モ本寺同前客殿五  
御

靈社 寺ノ後ノ山ニアリ當寺ノ除地ハコノ社ノタメニ免除セラレ

正明院 除地三畝十歩小名峽田ニアリ月光山ト號ス新義眞言宗ニテ青梅村

泉藏院 除地五十四坪小名宿ニアリ水澤山ト號ス正明院同宗ニテ長一尺五寸開山開

基詳ナラス

藥師堂 小名宿ニアリ堂ハ二間半ニ四間本尊  
坐像ニテ一尺五寸厨子ニ入村民ノ持

藥師堂 小名宿ニアリ堂ハ二間半ニ四間本尊  
坐像ニテ一尺五寸厨子ニ入村民ノ持

接引堂 見拾地五間ニテ長一尺四寸ナルヲ安置ス村民ノ持ナリ

舊蹟

古城蹟 古ヘ城ノアリシ頃ハ辛垣城ト云村ノ北境ニテ海禪寺ヨリ三町餘西北ニヨ

三町餘ニテ長一尺四寸ナルヲ安置ス村民ノ持ナリ

其形モトホリ平ケシカハ

古屋敷 小名宿ニテ所ヨリ北ノ方山ノ間居住ス其カマヘナリト云北所ニテ田平四郎

タ記セリ平四郎カ家召出サレタル年月等詳カナラス

舊家

百姓七兵衛 氏ヲ谷合ト稱ス代々里正ヲ勤ム先祖ハ常村開發ノ者ナリトイフノミ

トカ子没セシ祖カ慶長ノ初ニ筆記セシモノニ三田綱秀カ城永祿六年落去シ其後三

御朱印ヲ藏セリミナ左ニ出セリ

就向其口敵相動注進只今戌刻倒來火手見候迄無心元候間長尾修理亮其外至于

高倉差越候處ニ敵入馬候由告來候間至于酉刻歸陣今日刷之次第分露紙へ留候

無是非候柵出事大功候彼地へ動候者則被馳籠堅固之備肝要候恐々謹言

三月晦日 按ニ永祿七年カ

顯定花押

三田彈正忠丞

京大坂よりなこや迄はさ馬次夫之事



一京よりハ 關白殿御朱印

一大坂よりハ 北政所殿御朱印

一なこやよりハ 大問様御朱印

一右之所々一文つかひの精錢百貫文ツ、被置候條次馬つき飛脚如御定可相渡候事

一馬ニ者一里ニ付而精錢拾文ツ、十里之分合百文哉之事

一次夫一人一里ニ付而四文ツ、十里之分合四拾文哉之事

一馬之荷一駄拾貫目たるへき事

一人夫之荷物一荷拾貫内たるへき事

一御朱印御遣して遣候條任其旨相渡追而可遂算用事

一次馬次夫之事右之御朱印御遣して無之其かりとせにて可有之候間一切不可許容候事

一駄賃馬人足り候においての上より被下候ことく駄賃の高下あく貸可申事

右條々堅被相定置訖若於相背者可被處嚴科者也

天正廿年八月 印

大坂よりあこやへ次舟

一大坂よりハ 北政所為御印

一あこやよりハ 關白殿御朱印

一右浦々に一文遣之精錢百貫文宛被置候者次舟に可被下定に候但奉行相妨害

錢を遣之御定之ことく何錢にて増を入可請取候事

一次舟四たんちたるへく候壹艘一里に付て右之公用廿文宛十四里之分合貳百

文哉事

一御定之御朱印御印めいゝ請取置次舟に公用遣之追而算用可仕候自然御朱

印御印無之族次舟之儀雖申付不可許容事

右條々若違犯輩忽可被處嚴科者也

天正廿年八月日 豊臣氏ノ印アリ

兵庫

傳馬五疋可出之旨被仰出者也仍如件



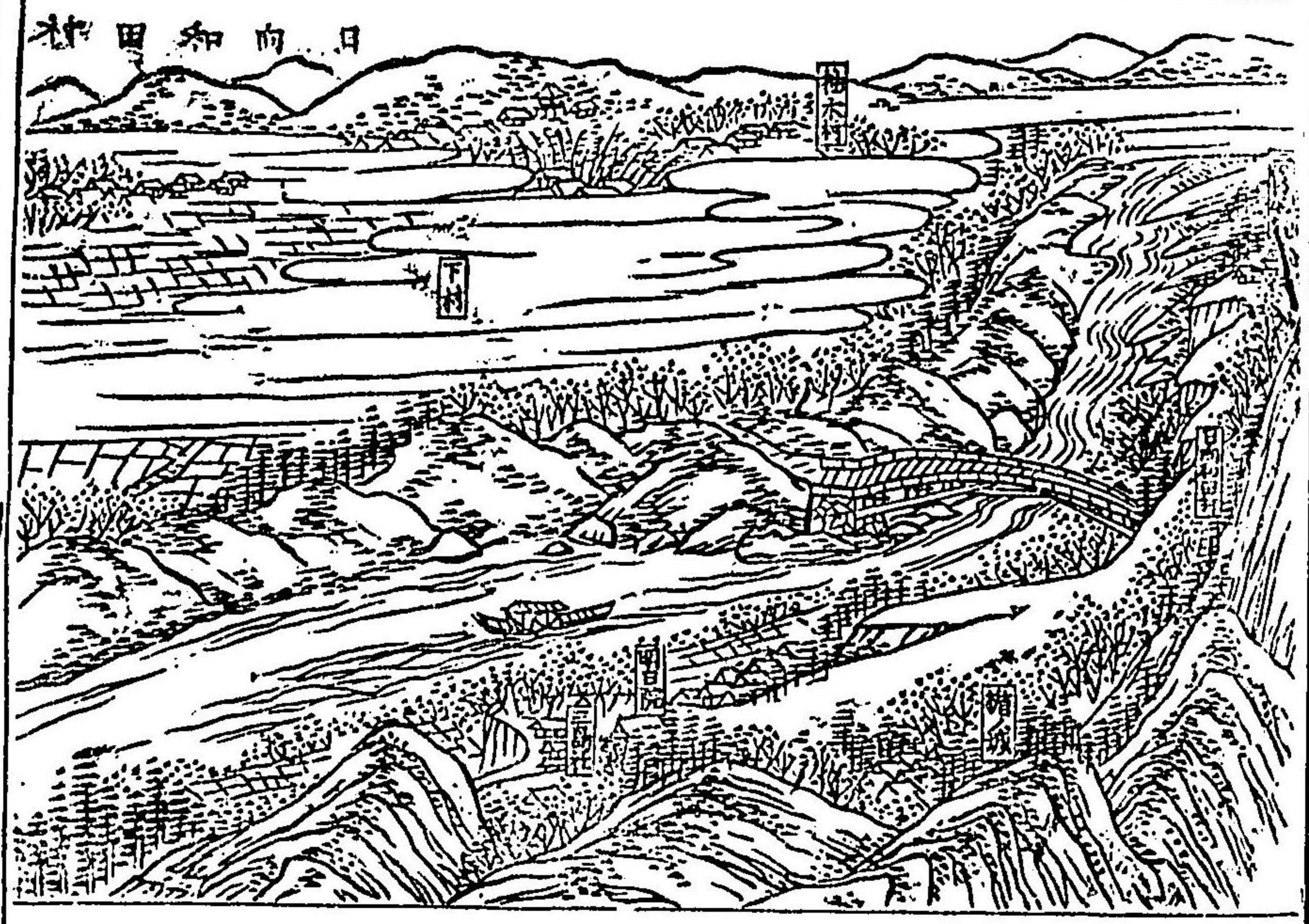
文政二年  
丑卯月十五日

日向和田村

自北山 くり橋迄

日向和田村ハ郡ノ西二俣尾村ノ東隣ニアリ古ハ氷川郷ニ屬セシガ今ハ用ヒス江戸日本橋ヨリ行程十三里餘當村モトハ日影和田村ヲ合セテ一村ナリシカ後ニ今ノ如ク二村トナリシヨシ年歴ハ傳ヘサント正保中ノモノニハ分テテ二村ヲノセタレハコノ以前分村セシコトハ論ナシ猶日影和田村ノ條下ヲ合セミルヘシ家數六十五軒東西二十町南北十五町許リ東ハ青梅村ニ接シ西ハ二俣尾村ヲ限リ北ハ黒澤村ニ隣レリ南ハ多磨川ヲ以テ塚トス川ノ向ヒハ日影和田村ナリ畑六分山林四分ニシテ水田ナシ土性眞土或ハ野土ナリ古ハ當村ト青梅村トノ塚ニ楯ノ澤トイフアリ是村内ノ小名ニシテ天正ノ前ヨリ田邊清右衛門惟良ト云モノ住居セシ所ナリトイヘリ其後宇大夫ト云ヘルカ寛文以前マテ住セシ所ナリトテ今モ土人其所ヲ屋敷迹トイフ下ニ出セリ尙其餘下ヲ合セミルヘシ寛永二十一年正月十八日檢地アリトイフ其人ノ姓名ヲ傳ヘス今ハ小野田三郎右衛門カ支配所ナリ

高札場 村ノ西寄街 道端ニアリ



日向和田村

小名

岩下 西寄二俣尾 小原 是モ西 白倉  
 同 村 塚 田 伊 ッ  
 上 矢毛 立 村 程 中 芝原 上 中 上 塚 上  
 ナリ 分 細田 多磨川 附 瀧 矢場 村 中  
 茶堂 東寄 狸澤 村 中 程 分 云 以 長  
 坂 寄 村 東 楯 方 右 入 口 下 分 東 分 上 長

山川

巖穴 一ヶ所 村ノ中程ヨリ北ノ方山ノ半  
 程深サ五六間 其奥ハシレス 坑口ニアラ  
 ス自然ノ窟ナリ 灰汁石ニテ日原山中ノ  
 窟ト

橋梁

橋三ヶ所 一ハ村ノ入口楯ノ澤ニアリ 板  
 ノ東往來ノ内狸澤ト云小流ニ架ス古今  
 アヤウキ橋アリシヨリ名トスレトモ今  
 ハ石橋架セリ長サ九尺幅一間 昨ハ多  
 磨川ニ架ス板橋長サ十九尺間幅三尺 水際  
 マテ四丈餘洪水ノ患ナシ 通路セリ是モ  
 澤井村ノ萬年橋トオナシ 抛ワシノ



橋ナリ當村ト二俣尾下村  
袖木ト四ヶ村コテ造レリ

神社

三島社 除地一段七畝二歩村ノ東ノ方ニアリ神主ヲ岩村日向ト云吉田家支配栗原  
神體ハ童形コテ駒コ跨リ木像長サ八寸許相傳フ古ハ此邊リ甚幽僻ノ地ナレハ  
人モ多ク通サルコテアル時童子馬ニ乗テスキケルテ其魂ヲナメントトテ三嶋明神  
ト崇メシヨリ崇リ忽ニヤミケルトソ此説ウケカヒカタキコトナレト土人ノ話ナ  
テハ記

寺院

明白院 除地二畝十一歩三嶋社ノナラヒニテ少ク西ヘヨリテアリ日向山ト號ス  
ノ木立像ヲ安ス開山天江東岳ト云慶長十八年八月廿七日示寂ス開基ハ松月真永  
ト云村民彌四郎先祖野口刑部丞カコトナリ寛永六年二月十二日没スナテ下舊家  
出セリ

舊蹟

屋敷蹟 青梅村ト當村トノ境コテ小名楯澤ト云所ニアリ先年田邊清右衛門其子平  
出サルハト云名主彌四郎カ家ニ田邊氏ヨリ此地ヲアツケケルヨリ今ハ畑地トナリタ  
ト云寶曆十一年三月豐嶋庄七ツケマハリテ細入チセヨリ今ハ畑地トナリタ

舊家

百姓彌四郎氏ヲ野口ト稱ス先祖ヲ刑部丞秀房トイヒ別ニ松月ト號セリ三田彈正  
シテ命ヲスカリ遂ニ當所ニ來リ民間ニ土著シ寛永年中八十九歳ニテ没セシト云  
其後ノコト詳ナラサレトカノ子孫タルコトハ疑ヒナク北條家ヨリノ文書八通ヲ  
所持ス其寫レ  
コハニ出セリ

書出

一五拾五貫文

高鹿郡内 平澤之郷

一拾壹貫文

駒木野 丹三郎 横吹

一二貫文

下村 屋敷 二又尾

一小曾木郷御代官所如前々

右今度師岡與今同時御嶽山致籠城抽而依走廻本領被下置彌々可令忠信者也仍  
如件

十二月廿八日

氏照花押

野口刑部丞丞



本わ爲御普請小田原之御馬來十六日御出馬候各致其支度可罷立然者くわ貳く  
あわ四房可爲持旨被仰出候也仍如件

錠こま九如本着到可持之者也

寅正月十二日

野口刑部丞

未進之麥八俵明日御陣着比引へ迄必々付可申此上就致無沙汰者足輕衆へ被  
遣候間直ニ郷中ニ指越牛馬と可被爲引者也仍如件

戌六月五日

平澤百姓中

右爲漆買錢代物壹ノ四百文被下之間口漆七ツ相調十二月十日と限可納之由被  
出者也依如件

亥十一月十二日

駒木野兩分百姓中

口口口候令啓候口口瀧山口申上候處大筑御馳走就之貴邊別而爰元ニ御入魂  
之御取成ニ付者忝次第ニ候於向後も當日隨身之所用不可有異儀候又御旦方御  
前付入候旨細生雲ニ申候不具候恐々謹言

十一月四日

德雲納所周日花押

野口丞

如仰以口在府大儀至候可過口口口當地へ可有參府上之儀候哀許御手透候口尤  
候御所様御煩氣以外候間更御隙無之候惣別一切之申事は及廿日餘候得共  
一事も我人不申上得候一日も大切之地ニ口御越ニ口不可有其曲候御歸城之時  
分を可被相待候月合邊と必々可爲御歸城候間談合可申候兼又紙外之祝着之至  
ニ候へハ申述可申恐々謹言

七月十日



一雲花押

野助十御報

今日御出陣候然者來七日如前々矢楯馬一疋好馬と撰と河越にて又野陣へ成  
共承合御陣着所へ必々七日ニ引來太田豐後代可渡之致無沙汰付者則被打散永  
可被爲山野旨被仰出候仍如件

九月七日

平澤百姓中

出書

- 一永廿貳貫五百八拾四文同所巳年金錢釘買代
- 一永七拾四貫百拾八文 同所年金錢大鋸作料
- 一百五石三斗五合 同扶持渡
- 是ハ大鋸六千七百七十九人此外百貳十次ハ御國役并兩扶持鹽噌之代共
- 一五拾四石五斗四升 人足扶持

是ハ人足壹萬九百八人材木運并大鋸番匠小屋夫共  
 米合八百七十四石六升七合  
 永合百四拾九貫九百卅貳文

慶長十一年丙午六月吉日

神主

濱名助六郎

大野善八郎

當代官

鈴木孫右衛門

右巳午兩年之御造榮三奉行野口刑部少輔走廻番匠大鋸衆御算用共ニ致之付而  
 向後までの覺ニ如是等書置者也

藤原秀房



105  
20

新編武藏風土記稿卷之一百十六終

新編武藏風土記稿卷之一百十六終



